2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月５日

上 場 会 社 名　　北海道コカ・コーラボトリング株式会社　　上場取引所　　東・札
コ ー ド 番 号　　2573　　URL　https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　酒寄　正太
問合せ先責任者　（役職名）　執行役員グループ経営管理部長　（氏名）　神埜　亨　　TEL　011-888-2051

配当支払開始予定日　　―
決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	45,505	1.8	1,690	△24.1	1,709	△23.1	1,096	△23.7
2025年12月期第３四半期	44,699	3.4	2,227	5.1	2,223	3.8	1,437	△5.4

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　1,050百万円（△24.1%）　2025年12月期第３四半期　1,383百万円（△6.6%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	80.57	―
2025年12月期第３四半期	105.66	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	56,172	44,010	78.3
2025年12月期	54,250	43,368	79.9

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　44,010百万円　　2025年12月期　43,368百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	15.00	―	15.00	30.00
2026年12月期	―	15.00	―		
2026年12月期(予想)				15.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,400	2.2	2,100	△20.0	2,050	△20.5	1,100	△34.1	80.86

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	13,607,996株	2025年12月期	13,607,996株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	1,012株	2025年12月期	966株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	13,607,027株	2025年12月期３Ｑ	13,607,122株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 経営成績等の概況 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 8

１．経営成績等の概況

（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第３四半期連結累計期間（2026年１月１日～2026年９月30日）におけるわが国を取り巻く経済状況は、深刻な人手不足や継続的な物価上昇への対応が続く一方、高い水準の賃上げが継続し、実質賃金の上昇を受けて個人消費は緩やかに回復するなど、景気は底堅く推移いたしました。一方で、中東情勢の悪化に伴う原油などエネルギー価格の急騰懸念もあり、先行きにつきましては引き続き不透明な状況が続いております。

北海道経済におきましては、生産活動に弱い動きがみられ、観光の回復も足踏み状態にあるものの、設備投資や個人消費には持ち直しの動きがみられます。

このような状況のもと、飲料ビジネスにおいては原材料・資材・エネルギー価格の高騰や為替相場の変動による影響が長期化していることを背景に、ペットボトル製品および缶製品等のメーカー希望小売価格を改定いたしました（2026年９月１日出荷分より）。

主な営業活動としては、当社の基幹ブランドである「コカ・コーラ」を中心に、ブランド価値の向上と販売拡大を推進いたしました。具体的には、FIFAワールドカップ2026などの世界的なスポーツイベントと連動した施策を通じて、ブランド価値の最大化を図りました。また、飲用機会の拡大に向け、「コカ・コーラ ゼロカフェイン」のリニューアルに合わせて「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロ」を合わせた３カラー展開を強化したほか、手軽に手に取っていただけるエントリーパック（350mlペットボトル）や、パッケージリニューアルを行った特定保健用食品（トクホ）「コカ・コーラ プラス」の取り扱い拡大を進めました。さらに「い・ろ・は・す」ブランドにおいては、北海道エリア独自の取り組みとしてローカルTV局とタイアップし、限定CMの放映や店頭施策を展開することで、さらなるファン層の獲得を図りました。また、新商品としては「綾鷹 番茶」ボトル缶の導入をはじめ、コーヒー豆不使用の「ジョージア カフェウォーターブラック」や、ノンアルコール市場向けの「よわない檸檬堂 和カクテル」等を発売し、新規飲用者の拡大を図りました。

飲食店等のEat＆Drinkチャネルにおきましては、「コカ・コーラ ゼロ（瓶）」や北海道限定商品の「綾鷹番茶（２LPET）」などの配荷を拡大し、新規開拓を推進したほか、「さっぽろオータムフェスト2026」では一部会場の専売権獲得や会場内での「瓶COKE BAR」展開などにより多くのお客様へ飲用体験と新たなブランド価値を提供いたしました。

自動販売機ビジネスにおきましては、当社の強みであるグループ会社の多様な業務支援機能「グループビジネス」と組み合わせた独自の課題解決型提案を展開いたしました。医療機関に対しては災害用防災備蓄品の管理を組み合わせた自動販売機の一社管理を提案したほか、オフィスや工場に対しては事務作業代行サービスと自動販売機設置を一体で提案することにより、他社からの切り替えや新規設置を進めてまいりました。あわせて、設置先での購入促進を図る「チームトライアル」や、取引先との関係強化を目指す「チケットドネーション」等の展開により、ビジネス基盤の強化に努めました。

環境・社会に対する取り組みとしては、持続可能な地域社会の実現に向けた官民共創および地域貢献活動を推進いたしました。

官民共創の取り組みとしては、札幌国税局との協働による国税のキャッシュレス納付および電子申告（e-Tax）推進をPRするラッピングを施した自動販売機の設置や、札幌市等と連携した健康アプリ「アルカサル」の協働事業などを展開いたしました。

地域貢献活動におきましては、「さっぽろ雪まつり」会場における二酸化炭素を排出しない水素発電を活用した無料休憩ブースの設置や、「第35回YOSAKOIソーラン祭り」における「ボトルtoボトル」の水平リサイクルの推進など、環境啓発活動を実施いたしました。さらに、JR北海道グループと連携した「黄８線区応援自動販売機」の展開を開始し、売上の一部を地域の交通インフラ維持や利用促進活動に還元する仕組みを構築したほか、「知床ねむろ道路協力団体支援自動販売機」や「札幌市スポーツ振興自動販売機」など、地域のインフラ維持やスポーツ・文化振興を直接支える各種支援自動販売機の設置を拡大いたしました。このほか、他企業と連携した海岸漂着物調査報告書の北海道への共同提出を行うなど、企業価値の向上にもつながっております。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高は全社を挙げた飲食店への活動の強化や、市場が拡大しているWEBチャネルの伸長の結果、45,505百万円（前年同期比1.8％増）となりました。利益面につきましては、飲料販売の伸長と価格改定効果に加え、グループビジネスの利益貢献が奏功するも中東情勢悪化による急激な原材料資材の高騰などの影響を受け、営業利益は1,690百万円（前年同期比24.1％減）、経常利益は

1,709百万円（前年同期比23.1％減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、1,096百万円（前年同期比23.7％減）となりました。

（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第３四半期連結会計期間末の資産、負債、純資産については、総資産は、商品及び製品や受取手形及び売掛金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1,921百万円増加し、56,172百万円となりました。

負債は、買掛金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1,279百万円増加し、12,161百万円になりました。

純資産は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ641百万円増加し、44,010百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年２月６日に公表いたしました予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,570	8,046
受取手形及び売掛金	6,958	7,774
商品及び製品	5,097	6,753
原材料及び貯蔵品	535	708
その他	1,911	1,966
貸倒引当金	△6	△4
流動資産合計	24,066	25,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,301	6,044
機械装置及び運搬具（純額）	5,495	5,357
販売機器（純額）	5,009	5,316
土地	6,356	6,356
建設仮勘定	462	988
その他（純額）	1,208	1,345
有形固定資産合計	24,834	25,408
無形固定資産		
ソフトウエア	1,210	1,106
その他	8	8
無形固定資産合計	1,219	1,114
投資その他の資産		
投資有価証券	693	693
繰延税金資産	―	2
退職給付に係る資産	3,268	3,490
その他	185	235
貸倒引当金	△16	△17
投資その他の資産合計	4,130	4,403
固定資産合計	30,184	30,927
資産合計	54,250	56,172

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,975	4,519
リース債務	322	331
未払金	1,693	1,507
未払法人税等	526	268
賞与引当金	―	385
設備関係未払金	473	247
その他	3,297	3,311
流動負債合計	9,289	10,571
固定負債		
リース債務	799	841
繰延税金負債	570	507
資産除去債務	82	80
その他	140	159
固定負債合計	1,592	1,589
負債合計	10,881	12,161
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,935	2,935
資本剰余金	4,924	4,924
利益剰余金	35,161	35,849
自己株式	△2	△2
株主資本合計	43,018	43,706
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	350	304
その他の包括利益累計額合計	350	304
純資産合計	43,368	44,010
負債純資産合計	54,250	56,172

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
売上高	44,699	45,505
売上原価	30,254	31,271
売上総利益	14,445	14,234
販売費及び一般管理費	12,217	12,543
営業利益	2,227	1,690
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	5	5
受取賃貸料	31	40
助成金収入	7	7
その他	36	38
営業外収益合計	82	93
営業外費用		
支払利息	1	2
固定資産除売却損	54	36
寄付金	17	16
その他	12	17
営業外費用合計	86	74
経常利益	2,223	1,709
特別利益		
固定資産売却益	0	－
投資有価証券売却益	－	24
特別利益合計	0	24
特別損失		
固定資産除売却損	7	38
投資有価証券評価損	－	24
リース解約損	0	0
特別損失合計	7	63
税金等調整前四半期純利益	2,217	1,671
法人税、住民税及び事業税	873	621
法人税等調整額	△94	△46
法人税等合計	779	574
四半期純利益	1,437	1,096
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,437	1,096

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
四半期純利益	1,437	1,096
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△53	△46
その他の包括利益合計	△53	△46
四半期包括利益	1,383	1,050
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,383	1,050

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社グループの事業は、北海道を主な販売地域とする飲料の製造・販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 (自　2025年１月１日 至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　2026年１月１日 至　2026年９月30日)
減価償却費	1,564百万円	1,735百万円